

## 第 1 回子ども・子育て会議 意見（会議シート）まとめ

委員名	意見要旨	事務局の見解
小寺委員	<p>・貧困アンケートについて 子どもの貧困に関するアンケートを子どもに対して行うことの難しさを痛感した。本格的に貧困問題の解明をするには、以下の事項が必要である。</p> <p>（１）回答者に「貧困」の定義を理解してもらう必要があるので、アンケート文面には貧困の定義を書くべきである。</p> <p>（２）子どもの貧困問題は世帯年収に関わることから、子どもに対してアンケート回答を求めるときはその世帯の保護者に大人用のアンケートに回答を求めるべきである。⇒親子セットでの回答を求める。</p>	<p>（１）アンケートの中で貧困に関する定義を示すことについては、本会議における議論において検討してまいりたいと考えております。</p> <p>（２）貧困実態調査については、同一世帯内の子どもと保護者のそれぞれを対象としており、回答については世帯関係を紐づけできるようにしてまいります。</p>
	<p>・アンケート回収率向上の工夫について 書面で回答したい人もいるため、書面回答をなくすことは出来ないが、例えばネット回答において、3分以内に回答できたら早く回答できたことを祝う音色が鳴るとか（早ければ良いというものではないので、回答が完了したタイミングで鐘が鳴るとか）ゲーム感覚を取り入れられないか。また、親子セットで行う場合には、親子で競わせる工夫があっても良いのではないか。</p>	<p>アンケート回収率を上げるための工夫については、インターネットにおける回答をしやすい環境の構築などについて、調査業務の受託者と検討してまいりたいと考えております。</p>
	<p>・質問の量が多すぎること、回答しづらい質問があることについて 大胆に質問量を削れないか。また、回答しづらい質問は飛ばして可とする等の許容性を明示できないか。アンケート出題者としても答えてほしい質問とそうでもない質問があるのではないか。</p>	<p>質問数について、計画に掲載すべき事項（量の見込みなど）に関係するような重要な質問は残しつつ、量が多くなりすぎないように検討してまいります。なお、回答しづらい質問については未回答で構わない旨は明記する予定です。</p>
	<p>結論ありきのアンケートでは意味がない。しかるに、野放図にこれまでと同じ質問では新しい「こども計画」策定は頓挫するものと思われる。</p>	<p>特に子ども・若者に対する調査など、新たな「こども計画」の策定に向けて価値のある調査を行ってまいりたいと考えております。</p>

## 第1回子ども・子育て会議 意見（会議シート）まとめ

委員名	意見要旨	事務局の見解
小寺委員	<p>会長を中心に新しいこども計画策定に必要な事項をピックアップしていただき、新しい視点で設問を練っていただきたい。仮にアンケート出題者の予想に反する回答が出た場合には、それはそれとして参考としたうえで新しいこども計画を策定すればよい。</p>	<p>「こども計画」の策定に必要な事項をあらためて整理するとともに、質問の案については事務局において作成した上で、委員の皆様にお示ししてご意見をいただきたいと考えております。</p>
	<p>アンケート内容の決定は最終的に事務局が決めるが、もし会長がこんな狙いで、こんな計画を盛り込みたいという目標を定めていただければ（つまり、本会議で一定の方向性を定めていただければ）本会議で議論をし尽くすことは難しいが、委員ひとりひとりから質問案を書面で出し合い、会長と事務局で取りまとめることもできるかと思う。</p>	<p>第1回会議と同様に会議シートを活用し、委員の皆様から質問案を頂くことも一つの方法と考えており、調査開始までの期間において、可能な限り御意見をいただければと考えております。</p>
	<p>会議時には会長をはじめ、子の福祉専門の委員の皆さん、市担当者で次期計画に盛り込む内容の青写真を既に想定されると推測していたが、アンケート事項に盛り込んで市民の思いやイメージをお聞きして具体化する部分もあって良いのではと思った。</p>	<p>次期計画の策定に向けては、アンケート調査を含め、あくまで現状を分析したうえで策定することが重要と考えております。</p>
	<p>例とする質問は以下のとおり。                      ・子の成長に一番重要なものは何か。それに関して行政に求めるものは何か。                      ・家庭生活上で幸せに思うことは何か。もっと幸せになるために何が足りないと思うか。等</p>	<p>御意見については、質問内容の検討に活用させていただきます。</p>
山田誠次委員	<p>・将来のこどもの少子化                      人数の減員減園：人数の減員は将来の減園に繋がるため、減員減園の予想計画を立てる</p>	<p>次期計画の策定に向け、本市における人口推計を行った上で、量の見込みについて検討してまいります。</p>

第1回子ども・子育て会議 意見（会議シート）まとめ

委員名	意見要旨	事務局の見解
山田誠次委員	<p>・保育士・指導員の成り手 成り手が少ない、待遇が良くないなどの声が聴かれます。これは給与・手当・待遇・福利厚生などの改善も見直すことも検討。</p>	<p>保育士の処遇改善につきましては、市内の民間保育所等を対象に、令和4年2月から令和4年9月まで、基本給又は毎月支払われる手当を3%程度、月額9,000円程度引き上げるための補助を行いました。令和4年10月以降は国が定めている「公定価格」により措置されております。今後も国等の動向を注視し、対応していきたいと考えております。</p>
	<p>・親、親族その他からの苦情対応 いわゆるクレーム対応の部署・人などの設定と堂々の対応を願う。これは、子ども・保育士・指導員を守り、子ども達の対応に専念してもらいたい。</p>	<p>御意見については、職場環境や体制の改善について検討する際の参考とさせていただきます。</p>
	<p>・現在在る保育ステーションをもっと活用してもらいたいので宣伝等の徹底などを。利用者が非常に少ないので対象者の拡大と用途の拡大を検討するのは如何でしょうか。</p>	<p>保育ステーションにつきましては、市民の方が利用する本川越駅構内、本川越駅ビル内の観光案内所及び本川越駅付近の公営駐輪場へのポスター掲示や近隣不動産業者へのPR活動等を行ってまいりました。 一時預かりにつきましては、令和4年度、登録者数257人、延べ2,039人の方に利用をいただき、軌道に乗ってきたところですが、送迎保育につきましては、令和4年度の登録者数が5人となっており、利用者が少ないのが課題と認識しております。今後のつきましては、利用者のニーズを踏まえた送迎サービスにおける利用者数の向上に向けた検討を進めてまいります。</p>
	<p>・児童発達支援では、対象者にきめ細かい対応・推進・指導で出来る限り他の子ども達と馴染み、同調できる様に对应して欲しい。</p>	<p>児童発達支援では、心身に障害または発達の遅れがある児童に対し、集団生活への適応訓練など、一人一人の特性などに応じた支援、指導に努めてまいります。</p>

## 第1回子ども・子育て会議 意見（会議シート）まとめ

委員名	意見要旨	事務局の見解
山田誠次委員	<p>・これからの子ども・子育て会議は従来の範囲（各課の壁）を超えなければ進められないようになってきている。他の課などの参加、協同審議が必要となるのではないか。</p>	<p>こども家庭庁では省庁横断的に施策に取り組むこととしており、本市においても部課の壁を越えて施策に取り組む必要があるものと考えております。今後、施策の検討や実施については、さらなる連携を進めてまいります。</p>
	<p>・これからの審議会で作れる限り、子ども達、保育士、指導員の方々に寄り添った審議を細かく進めたい。</p>	<p>国の方針においても施策の対象となる子どもや若者の意見を踏まえて施策を検討することとしております。御意見については今後の審議会運営の参考とさせていただきます。</p>
山本委員	<p>・スマホがない、ネット環境がない貧困家庭はネット回答自体が不可能と思われる。</p>	<p>書面による回答もできるように対応してまいります。</p>
	<p>・子どもの頃、学校でアンケートに回答した記憶があります。小中学校、義務教育且つ公立となると様々な家庭環境の子どもがいますので、アンケート実施に適切かと思えます。地区別に実施してみてもいかがでしょうか。（学校との連携強化）</p>	<p>学校を通して実施するアンケート（小学5年生・中学2年生）については、その学年の全員を対象とすることとしております。調査の実施に際しては各学校に協力を依頼するとともに、回答結果について、必要に応じて地区別の分析を行うことを検討してまいります。</p>
	<p>・貧困の実態、貧困といえる最たる概念や基準が必要かと思えます。主に衣食住と考えると、満足に食べられているか等の生活習慣面中心になるかと思えます。趣味や遊びの多様性から、本やゲームというものがあるかどうかでは、また違う話になってしまうと思えます。</p>	<p>貧困の定義について、現在の第2期川越市子ども・子育て支援事業計画では所得、家計の状況、子どもの体験や所有物といった要素により定義づけております。今回の調査や計画策定においても、複合的な要素により貧困の定義を行うことについて検討してまいります。</p>
伊藤委員	<p>・アンケート調査について、①ニーズ調査、②貧困調査は前回（平成30年度）にも実施していることから、アンケート調査の内容の改善点を見出している部分があれば今回のアンケート調査にて反映いただき、「傾向と課題の抽出」が効果的に導き出されるよう検討いただきたい。</p>	<p>前回調査との比較により、傾向と課題の抽出を行うことは重要であると考えております。その上で、現在の課題に対して必要となる新たな質問項目についても反映してまいりたいと考えております。</p>